

企業名： 加賀電子

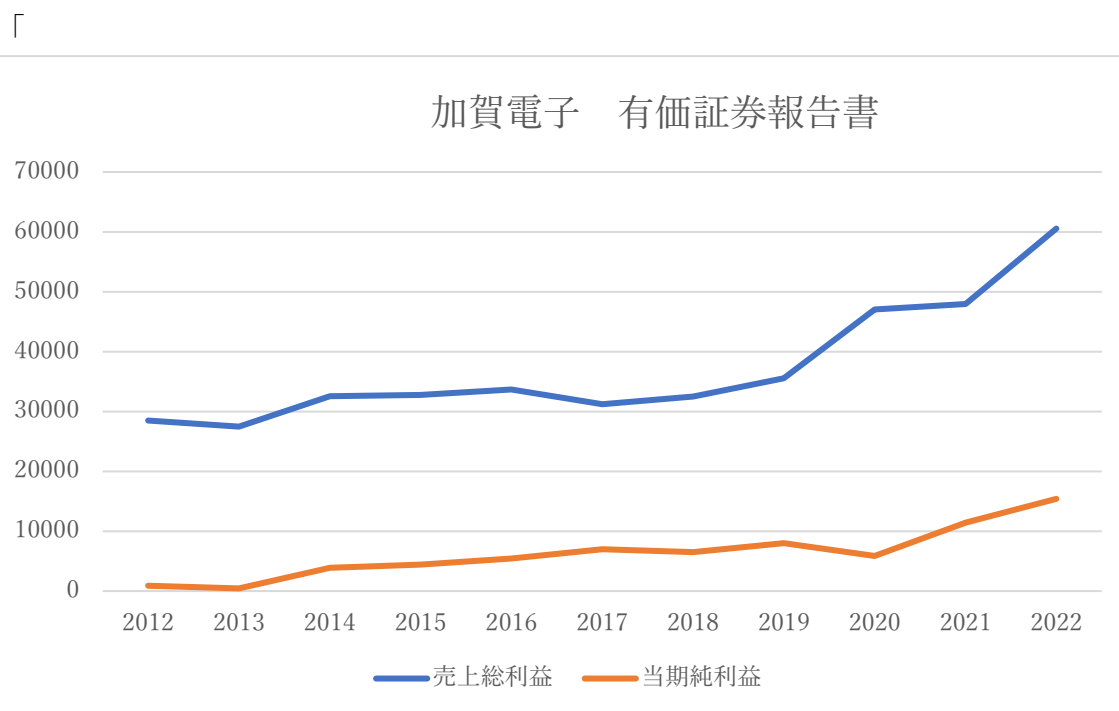
レポート名：統合レポート 2022 （例「統合報告書 2022」）

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

統合報告書の価値創造プロセスのスライドでは、電子部品事業や EMS 事業、情報機器事業において日本国内で一番のシェア率を目指し、日本での業界 No.1 になることを目指していることが分かった。日本での業界 No.1 になるため、具体的な戦略として、中期経営計画 2024 を掲げている。基本戦略としては商社ビジネスの規模拡大、EMS ビジネスによる高付加価値化、海外ビジネス・EMS ビジネスの強化や拡大がある。また、将来性のある会社となるために SDGs を意識した経営方針となっている。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

加賀電子は、統合レポートに掲載されている有価証券報告書から判断すると、かなり成長している企業である。ここ 11 年間(2011~2022)までの期間の売上総利益と当期純利益に焦点を当てたグラフを表し、会社の競争優位性について考察する。



グラフからわかるように、加賀電子は非常に近年にかけて成長している会社であり、競合他社としては大手エレクトロニクス上場会社として、マクニカ・富士エレホールディングス、レスターホールディングス、丸文、シークス、三菱商事などがある。加賀電子は、エレ

クトロニクス商社企業としては、マクニカ・富士エレホールディングスに次ぐ、企業である。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

加賀電子は、近年かなりの成長をしており、中期経営戦略が成功したといえる。よって、競争優位性は可なり高いのではないかと考えられる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

加賀電子は、コーポレートガバナンスにかなりの力を入れており、社外取締役を多数起用し、SDGs 委員会、CSR 推進委員会を設置するなどをしている。また、従業員に対して、充実した福利厚生を保証し、さらに平均年間給与の上昇、有給付与などを行っている。離職率の低下なども鑑みると、かなりの人的資本の価値向上を達成できている。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

この報告書では、良かった点は、価値創造プロセスのスライドである。加賀電子が、具体的にどのように経営戦力を行っているかを理解することができた。改善の余地としては、特に思い当たらなかった。